

Frente



三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

2021.12

vol.87

特集!

『コロナ禍の女性と子ども』

「表面化するジェンダー課題のいま」

「見えないもの」で「見えてきたもの」

ほか



事業案内

- 男女共同参画フォーラム
～みえの男女2022～
- 男性講座
「ヒトとゴリラと男と女
～ゴリラから生き方を学ぶ～」

特集!

- 荻原くるみの「紹介したいまち!」
第3回 福井県 鯖江市
- フレンテスタッフエッセイ
第3回「おうち時間「祖父の介護
～父のせなか～」」

事業報告

- フレンテまつり2021オンライン
with謎解きゲーム ジェンダー城のナゾ!2
- 総文パープル・ライトアップ2021

コロナ禍の女性と子ども

～表面化するジェンダー課題のいま～

私たちの誰もが多大な影響を受けた「コロナ禍」。長引く自粛生活の中で、私たちにどのような影響を与えたのでしょうか。報道等をとおして様々な情報がありますが、今回は女性と子どもに焦点を当てて振り返ります。アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、これからの私たちの暮らしをさらによりよいものとしていくためにも、このタイミングで一緒に考えてみませんか？

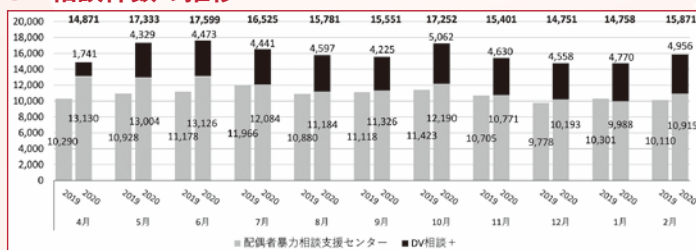
1. 女性に対する暴力と子どもへの虐待

コロナ禍での生活不安や外出自粛による在宅時間の増加により、DVが増加しています。女性が被害にあうことが圧倒的に多く、コロナ禍のDV問題への対応のため内閣府が設置した相談窓口「DV相談プラス」へは、パートナーが家において暴力が激しくなった、特別定額給付金を渡してくれない、また浪費してしまったなど、様々な相談が寄せられています。

ではこれらの暴力は、新型コロナウイルスが蔓延しなければ起こらなかったのでしょうか。残念ながら、そうとは限りません。コロナ禍に入る前から暴力を受けながらも我慢していた人たちもたくさんいます。コロナ禍によってその被害が深刻化したことにより、初めて相談につながり問題が表面化したケースが多くあります。大切なのは普段から暴力が起こらないようにすること、そして暴力被害にあったときにすぐに相談できるような体制を作ることだと言えます。

女性に対する暴力のみならず、子どもへの虐待も増加しています。子育て支援センターなどの利用が制限され、子育ての負担、孤立、コロナ禍の自粛などが重なり、行き場をなくしたストレスが子どもへ向かってしまう事例もあります。人と人とのつながりが薄くなりがちでコロナ禍だからこそ、オンラインの活用など対策が必要です。また、人と人とのつながりが希薄になったことにより、特に若年女性が居場所を失い、SNSを通じてかわりを持った相手から性暴力被害にあうケースや、望まない妊娠、自殺といったリスクも考えられています。

DV相談件数の推移



2. コロナ不況の影響を受ける女性たち

コロナ禍における就業状況は男性よりも女性に厳しいものとなっています。自粛による影響を強く受けている飲食業、宿泊業などでの働き手は女性が多く、さらに雇用形態が非正規雇用であることも加わり、職を失う女性が増加しています。

これまで女性は、男性と比べると不安定な雇用形態で働いている人が多い傾向にありました。そのため、コロナ禍の影響を男性よりも強く受けています。女性活躍推進法など女性の職場での活躍が推し進められているなかでも、まだまだ平等ではない現状が伺えます。

また一人親家庭、とりわけ母子世帯の生活もより深刻なものとなっています。母子家庭における母親の就業率はそれ以外の女性と比べると高いものの、半数以上が非正規雇用です。度重なる自粛によって、休業や解雇にあい収入が絶たれてしまった人たちもたくさんいます。

母子世帯のなかには、コロナ禍の前から生活がひっ迫している人も大勢いました。そのような人たちは、この非常時を乗り切るのは大変困難です。どのような立場であろうと、安心して生活ができるような社会の仕組みづくりが求められています。

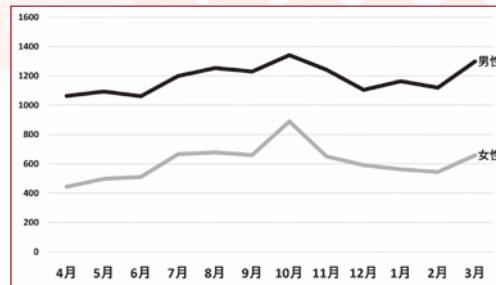
3. 健康課題とコロナ禍

コロナ禍は私たちの心身へも大きなかけりをみせています。自殺者数は依然として男性が多いものの、女性の自殺者数がこれまでに比べると増加傾向にあります。特に無職者や女子高生の増加が多く、DV被害や育児の悩み、介護疲れといった要因のほか、特に女子高生の場合は、進路の悩み、精神疾患など病気の悩みが要因として挙げられます。育児・介護といったケア役割は女性に集中していることが多く、「健康を守る責任が大きすぎる」と感じた女性も多くおり、コロナ禍の女性の負担を大きくしています。

これは固定的性別役割分担意識から、家庭内での負担や家族のケアを女性が担ってきたことによるもので、この緊急事態において、より一層役割意識が強化されて表出した問題だと考えられます。そのため、今現在負担を抱える女性への支援だけでなく、今後同様の事態が起こった時に、同じ課題が生まれないう、従来の慣行を見直す必要があります。

さらに、妊産婦をとりまく状況として、感染不安から休業やテレワークを申し出ても事業主の理解が得られない、出産前の両親を支援する両親学級が無くなる、産後の生活が孤立してしまうなど感染拡大前と比べると大きく環境が変わっており、うつ病の発症や虐待に至るといったケースもありました。

2020年度の自殺者数の推移

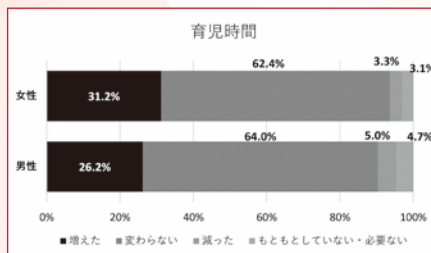


4. 家事・育児のこれから

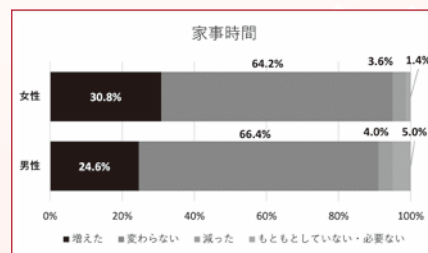
結婚している女性のうち、子どものいない女性と、小学生の子どもがいる女性を比べると、小学生の子どもがいる女性の方が、就業率が低下するなど仕事を離れた人の増加が目立っていました。学校の休業等により、子どもの在宅時間の増加で、女性が子どもの世話をせざるを得なくなってしまう影響ではないかと考えられます。まだまだ、家事や育児は女性が多く担っている現状だといえます。

しかし、女性の家事育児時間が増えただけでなく、男性の家事育児の時間も増加したという調査結果があります。生活が一変した今だからこそ、家事育児は女性の仕事、という従来の価値観を見つめなおし、新たなライフスタイルを考えていくきっかけになるといいですね。

2020年4-5月の育児時間の変化



2020年4-5月の家事時間の変化



終わりに

いかがでしたか？コロナ禍は私たち、とりわけ女性や子どもたちにたくさんの生きづらさを与えています。それはコロナ禍ゆえの事柄だけでなく、普段の生きづらさがより強くなって現れたものも少なくありません。このような非常時にも、誰一人取り残されることのない社会を作るためには、ことが起こってから対策をとるだけでなく、普段から柔軟な社会づくりを意識する必要があります。これを機に皆さんも、今できることを始めてみませんか。

グラフ：「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書 ～誰一人取り残さないポストコロナの社会～」
(コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会) よりフレンテみえ作成

困ったときは相談を。

フレンテみえでは困った時に相談できる窓口を開設しています。相談は無料、秘密厳守です。何かあった時には気軽に利用してください。

フレンテみえ相談室の情報は情報誌裏面、またはフレンテみえホームページまで。
<https://www.center-mie.or.jp/frente/consult>



フレンテまつり2021オンライン with謎解きゲーム ジェンダー城のナゾ! 2

開催日

6月23日~9月30日

水

木

フレンテみえ登録団体の皆さんの交流イベントとして毎年開催しているフレンテまつり。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、史上初のオンライン開催となりました。

フレンテみえホームページ内に期間限定の特設サイトを設置、その中で登録団体の皆さんの活動内容紹介や、オンラインで楽しみながら男女共同参画を学べる謎解きゲーム「ジェンダー城のナゾ! 2」を開催しました。また、期間中には登録団体の皆さんによるオンラインワークショップも実施しました。

謎解きゲームが SNS 上で紹介されるなど話題になったこともあり、特設サイトには北は青森、南は熊本まで全国各地から、通常開催時を大きく上回る 2400 名以上の方にご参加いただきました!アンケートによると、全体の 8 割以上の方が「フレンテみえのイベントに初めて参加した」と回答されており、これまでフレンテみえのイベントに参加したことがなかった方々にもフレンテみえや登録団体の皆さんの活動を知っていただく良い機会となりました。

まだ謎解きゲームに参加していないという方へ!
三重県総合文化センターホームページ内の
「お家で楽しもうシリーズ」から挑戦できます!



フレンテまつりに参加してくれて
ありがとうございます!
また一緒に冒険しようね。

内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」(パープルリボン運動) 総文パープル・ライトアップ2021

開催日

11月11日~28日

木

日

毎年11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」(パープルリボン運動)期間。内閣府が呼びかけるパープル・ライトアップに賛同し、7年目の実施となる今年は「そうぶんの竹あかり」イベントとコラボレーションして、知識の広場にてパープルの竹あかりを灯しました。

配偶者やパートナー・交際相手からの暴力や、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為など、女性に対する暴力は、加害者、被害者の間柄を問わず女性の人権を著しく侵害するものであり、いかなる状況下であっても、決して許されるものではありません。

「ひとりで悩まず、まずは相談してください」、そして、「周囲の人は気づいてあげてください」

紫色の光に込めたこのメッセージが、竹あかり作家・演出家の川淵皓平さん率いるcanaarea(カナエリア)の創り出すあたたかい光とともに、訪れた多くの皆さまに届いたことと思います。



※DV(ドメスティック・バイオレンス)=配偶者や恋人など親密な関係にある(あった)人からの暴力

令和3年度 フレンテみえ種まきプロジェクトII “働く”編 「近未来リーダー☆育成プロジェクト」

開催日

11月10日~24日

水

水

女性も男性もあらゆる可能性を“自分なんか”と諦めず、“自分だから”こそ描ける未来へ向けて、必要な意識・知識・スキルを学んでいただくフレンテみえの人財育成講座。2年目となる今年は、リーダーを見据えて業務内容の幅を広げる3つのテーマについて開催し、いずれの回も少人数を対象とし、充実した講座となりました。

本事業は5年間に亘るプロジェクトで、今後も毎年様々なテーマで開催する予定です。誰もが長く関わる“働く”場だからこそ、自分らしく充実した日々のために、ぜひ活用ください!

今年度開催テーマ

- vol.1 『いまさら聞けない“マーケティング”基礎講座』 講師:平林 滋さん《株式会社百五総合研究所 コンサルティング事業部部长(経営コンサルティンググループ担当) 主席研究員》
- vol.2 『知るほど役立つ「ビジネス法令」』 講師:前川 光子さん《ひかり社会保険労務士事務所 社会保険労務士/(公財)21世紀職業財団認定ハラスメント防止コンサルタント》
- vol.3 「三重の産業 過去・現在・未来」 講師:松下 功一さん《三重県雇用経済部 副部长》

事業予告

3/5

ひと
男女共同参画フォーラム～みえの男女2022～

いまこそ身軽に、シンプルに 「本当の“あなた”になる」

同時開催：第34回 農山漁村のつどい

長らくコロナ禍での閉塞感や様々な“分断”は多くの人々を苦しめています。そこに根差している“これまでと同じようにできない”ストレスの背景には、私たちが知らぬ間に作り上げてしまっていた「固定観念への囚われ」がみえます。特に女性が被っている多くの困難では、ジェンダーや固定的性別役割分担意識などの性別に関する固定観念が息苦しさや生きづらさを助長していると考えられます。もし私たちがこの無意識に抱えている強い囚われに気づき、一人ひとりがそれを武器にすることをやめられれば…。女性も男性もきっと多くの困難を和らげ穏やかな時間を取り戻すきっかけとなるのではないのでしょうか。

今年度の『男女共同参画フォーラム』は、今だからこそ女性はもちろん男性も、すべての人が自身を見つめ自分らしく生きるための一歩を踏み出すための様々なヒントを提供するとともに、誰もが待ち望む明るい未来へ向けて、エールを贈る場となることを目的として開催します。

トークイベントゲスト

犬山 紙子 さん(イラストエッセイスト)

プロフィール

仙台のファッションカルチャー誌の編集者を経て、家庭の事情で退職。20代を難病の母親の介護をしながら過ごす。

2011年、女友達の恋愛模様をイラストとエッセイで書き始めたところネット上で話題になり、マガジンハウスからブログ本を出版しデビュー。

現在はTV、ラジオ、雑誌、Webなどで粛々と活動中。

2014年に結婚、2017年に第一子となる長女を出産してから、児童虐待問題に声を上げるタレントチーム「こどものいのちはこどものもの」の立ち上げ、社会的養護を必要とするこどもたちにクラウドファンディングで支援を届けるプログラム「こどもギフト」メンバーとしても活動中。

その反面、ゲーム・ボードゲーム・漫画など、2次元コンテンツ好きとしても広く認知されている。



日時 3月5日(土)

10:00～15:30

ホールイベント 13:30～15:30

参加無料

要事前申込
(先着順)

会場 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
1階 多目的ホールほか

対象 テーマに関心のある方、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントを願う男女(ひと)

定員 150名程度

主催 三重県、(公財)三重県文化振興事業団

共催 「第34回 農山漁村のつどい」実行委員会

託児 あり 要事前申込
0歳3ヶ月～小学3年生程度
子ども一人につき1,000円
託児申込締切 2/19

※今後の感染状況により、日程・会場の変更や「オンライン」での実施、または事業が中止となる場合がございます。変更が生じた際はお申込みの皆さまへ個別にお知らせいたします。最新の情報は、フレンテみえホームページでご確認ください。

ほかにもイベントがいっぱい!

フォーラムでは、「第34回 農山漁村のつどい」のほか、女性差別撤廃条約やジェンダーギャップ指数に関する分科会、パネル展示や物産販売会(お昼のみ)など、様々な企画を実施予定です。皆さまのご参加をお待ちしています!

2/6

令和3年度 フレンテみえ男性講座

ヒトとゴリラと男と女 ～ゴリラから生き方を学ぶ～

いま、「男らしくあれ」という価値観への囚われが多く男性を苦しめる要因になっていると言われています。そんな「男らしさ」の起源はどこにあるのか? 霊長類研究の第一人者、山極壽一さんが男性の身体や心に刻み込まれた「オス」の特徴を霊長類の生態から解き明かし、「男らしさ」について生物学的にアプローチしていきます。

知っているようで知らない、ゴリラをはじめとする霊長類たちの生態。そこから私たちが学ぶべきことについてたっぷり語っていただきます。男性に限らず、すべての性別の人にとってこれからの時代を生きていくためのヒントがここに!



日時 2月6日(日)

13:30～15:30

参加無料

要事前申込
(先着順)

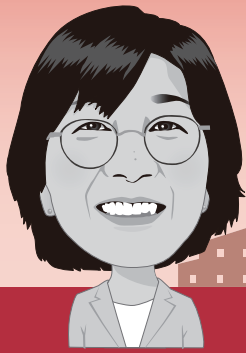
会場 三重県総合文化センター内
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
1階 多目的ホール

対象 テーマに関心ある方
※すべての性別の方にご参加いただけます

定員 150名

講師 山極 壽一さん
(霊長類学者/総合地球環境学研究所所長、
元京都大学総長)

託児 あり 要事前申込
1歳6ヶ月～小学3年生程度
子ども一人につき500円
託児申込締切 1/23



フレンテみえ所長の萩原が、皆さんにぜひ知っていただきたい「まち」をご紹介しますシリーズ。
第3回は、SDGs未来都市「福井県鯖江市」をご紹介します!

フレンテ所長
萩原くるみの

紹介したいまち!

第3回 福井県 鯖江市

三重県は昨年「SDGs 未来都市」に選出されました。SDGsとは、国連サミットで採択された、世界が達成すべき「持続可能な開発目標」です。気候変動や自然環境での取組が話題にあがること多い SDGs ですが、その17ある項目の目標5に、「ジェンダー平等」が挙げられているのをご存じですか?

その「ジェンダー平等」の目標において、「SDGs 未来都市」の中でも特に優れた「自治体 SDGs モデル事業」に選出されているまちがあります。福井県のほぼ中央に位置する人口7万人弱のまち、鯖江市。その取組について、鯖江市総務部市民活躍課 女性活躍推進グループの川江さんにお話を伺いました。

「SDGs 未来都市」とは?

SDGsの目標達成に向けて優れた取組を行っている地方自治体を内閣府が選出したもの。三重県のほか、県内では、いなべ市、志摩市も、まちづくりや環境分野での取組について、選出されている。

内閣官房・内閣府総合サイト 地方創生
<https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/>



■ 鯖江市は、三重県よりも早く2019年度に「SDGs未来都市」に選出されていますね。これまでに選出された自治体のなかでも、目標5の「ジェンダー平等」を一番挙げて選出されているのは、鯖江市のみではないでしょうか。なぜ、「ジェンダー平等」なのでしょう?

鯖江市は、古くから眼鏡・繊維・漆器などの地場産業が盛んな「ものづくりのまち」として発展してきました。特に、眼鏡フレームの国内生産シェアは9割以上を占め、「めがねのまち」として全国に知られています。

本市のものづくりは、家内経営が多く、昔から男女がともに働くのが当たり前で、鯖江の女性は、男性とともに経営を担う一員としての役割を持ち、やりがいを持ちながら仕事と生活の両立を実践してきました。そのため、女性の就業率・労働力率・共働き率が全国1位の福井県の中でも、鯖江市の女性の就業率はトップとなっています。

また、2010年の市民提案をもとに制定された「鯖江市民役条例」をきっかけに、市民が積極的に市政に参加する「市民役のまちづくり」が進められる中で、女性の活躍は、仕事の面だけでなく、まちづくりの面においても、どんどん広がりを見せています。

このような地域の特性から、ジェンダー平等の実現と女性活躍の推進がSDGs17全ての目標達成の礎になると考え、女性が輝くまちづくりを軸に「女性のエンパワーメントが地域のエンパワーメントにつながる」として、様々な施策に取り組むこととしました。

■ 「女性が輝くまち」として、とてもユニークな取組をなさっていますね。特に「鯖江市役所JK課」については、数年前から全国的にも注目されているかと思います。どのような取組か、教えていただけますか?

「鯖江市役所JK課」は、まちづくりに興味を持った女子高校生グループで、2014年4月、公募により集まった13人からスタートしました。企画を行政が提案するのではなく、女子高校生が自らやりたいことを企画し、実施するプロジェクトです。これまでに、市内の菓子業者とコラボしたオリジナルスイーツの開発や仮装とゲームを絡めたゴミ拾い企画など、まちの大人を巻き込みながら、女子高生ならではの視点を取り入れた活動を展開してきました。今年度は8期生22人が在籍中で、これまでに延べ107人が参加しています。

また、JK課を卒業した16名が自主的に集まり、2019年10月「鯖江市JKOG課」を結成しました。後輩たちJK課の自主企画を具現化するサポートをすることで、継続してまちづくりに参加しています。メンバーの中には、一度は都会に出たものの、やはりまちづくりに携わりたいとUターンした人もいます。地方の若者の多くが大学進学や就職をきっかけにふるさとを離れる中で、JK課の取組によって、「鯖江市が好き」という若者のふるさと愛が徐々に根付いてきているように感じます。

こうした自由な発想でまちづくりを楽しむ若者たちの活動に触発されて、地域の大人たちも少しずつ変わり始め、50代から60代を中心とした女性たちが、「私たちも何かできる」「女性の視点を生かしたまちづくりを進め

たい」と自ら立ち上がり、「鯖江市OC課」を結成。OCは「おばちゃん」の略です。公園の男性用トイレにおむつ交換台を設置する提案や、女性を中心に幅広い世代がまちづくりを考える「全国OCサミットin鯖江」の開催など、積極的にまちづくり活動に取り組んでいます。



今年度の「鯖江市役所JK課」

まちづくりに関心が低いとされている女子高校生が、自分たちのふるさとの関心を示し、若い感性で楽しみながら地域に関わろうとする「鯖江市役所JK課」のプロジェクトは、平成27年度ふるさとづくり大賞自治体部門「総務大臣賞」受賞をはじめ、平成30年度地域づくり大賞「全国地域づくり推進協議会会長賞」受賞のほか、高校の現代社会の副読本の表紙を飾るなど、高い評価を受けている。

■ とても素晴らしい取組で、まさに女性活躍のバイオニアですね。市民活動への広がりもあって取組はとても順調に思えますが、もし何か課題があるようでしたら教えてください。

女性の高い就業率やまちづくりへの積極的な参加が広がっている鯖江市ですが、一方で、企業などでの女性管理職や女性議員、町内の区長など、意思決定の場における女性登用率はまだまだ低い現状にあります。今年度の企業における女性管理職の割合は13.8%で、全国平均16.4%に比べて低く、また、市議会議員は19人中1人に留まっています。

そこで、2020年4月にスタートした「鯖江市第5次男女共同参画プラン」より、女性の社会進出の阻害要因のひとつとされる「インポスター症候群」に着目し、この背景を調査研究して改善策を求めていく「インポスター症候群ゼロ運動」を始動しています。これまでは、様々な場面で女性が参画しやすい環境づくりをめざしてきましたが、どれだけ環境面の整備を進めても、なかなか意思決定の場への女性の参画が進まない現状があった中、この「インポスター症候群」の存在を知り、女性自身にも要因があるのではないかと考え、調査・研究・対策に取り組むこととしました。アンケートによる実態調査や啓発活動、自己肯定感を高める講座などの活動を進めていくことで、市民にインポスター症候群の存在を認知してもらい、自信を持って活躍する女性が増えてくれることを期待しています。

※「インポスター症候群」…下記「フレンテメモ」参照

■ 最後に、いま力を入れていらっしゃる取組、今後力を入れたい取組があれば、教えてください。

2020年9月に「さばえSDGs推進センター」を開設し、このセンターを拠点に、市民団体・企業・学校を巻き込みながら取組を進めており、SDGs推進への機運がどんどん高まってきています。さらに、男女共同参画・女性活躍推進拠点施設「夢みらい館・さばえ」との連携により、SDGs目標5の「ジェンダー平等の実現」についても、いっそう取組の輪が広がってきています。

今年度の新たな取組として、若者や男性、企業経営者らへの意識改革のための事業に取り組んでいます。市内高校との連携によるワーク・ライフ・バランス学習、育児パパを対象にした「Sabaパパ交流会」、女性活躍を推進する企業リーダーの会「さばえ38(さんばち)組」の発足などです。また、多様性を受容するため、LGBTQの理解を深める研修や啓発事業にも取り組んでいます。

鯖江には参加・参画意欲が旺盛な女性が多くいます。この地域性を生かし、女性も能力を発揮できる居場所と出番をつくることが重要だと考えています。また同時に、男性の理解と意識改革がとても重要です。「ジェンダー平等の実現が輝く未来への鍵」を合言葉に、一步一步ではありますが、時代に沿った取組を柔軟に考えながら進めていくことで、市民の意識と行動が変わり、性別に関係なく、すべてのひとがいきいきと活躍できる「めがねのまちさばえ」を目指して、取り組んでいきます。

「さばえSDGs推進センター」

<https://www.sabae-sdgs.jp/>



「夢みらい館・さばえ」

<http://www4.ttn.ne.jp/~yumemirai/>



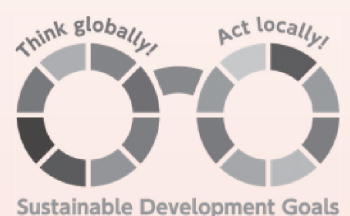
2018年5月、ニューヨーク国連本部で開かれた「SDGs推進会議」に鯖江市長(当時)が招かれた。

「鯖江市から女性が幸せを感じる、女性が輝くものづくりのまちのロールモデルの構築をめざしたい。」と演説。「市民が参加しているモデルは非常に有効なもの。女子高生から高齢者までがどのように社会に参加しているのか、国連も学ぶべきところが多々あった。」若い世代が地域参画する土壌を持ち、参加を促す居場所と機会を作り出してきた鯖江市のモデルは大いに参考になると高い評価を得た。



アイキャッチとして披露された「メイドインさばえグローバル」。

1つのレンズで世界(グローバル)の動きをとらえ、もう1つのレンズで地域(ローカル)を考え行動することを表している。SDGs目標の17色を眼鏡の形に配し、目標5「ジェンダー平等の実現」を表すオレンジ色のブリッジがつながる「めがねのまちさばえ」ならではのデザイン。現在は、鯖江市のSDGs推進シンボルマークとして活用されている。



「めがねのまちさばえのSDGs」 → https://www.city.sabae.fukui.jp/about_city/sdgs/201809.html



幅広い世代の女性たちが活躍する、とても魅力的なまちのご紹介でした。市民主導のプロジェクトを行政が支え、さらに多くの市民に活動が広がっていく好循環は、地域の事業のあり方として理想的だと感じました。また、それぞれのプロジェクトのネーミングセンスも素敵で興味が湧きます。新しい取組も始まり、これからの鯖江市にも注目していきたいです。貴重なお話をありがとうございました。

「紹介したいまち!」次回(最終回)もお楽しみに。

第3回

フレンテスタッフエッセイ

おうち時間「祖父の介護～父のせなか～」

歳月人を待たず。師走の足音にせかされて、一気にあわただしさを感じます。時計が刻む速度は一定のはずなのに、時間の流れを早く感じたり、遅く感じたり、不思議です。年末に向かうほど何かと用事が多くなります。秋から取り掛かっではみるものの、やはり毎年ドタバタしている気がします。一年間の間に積みりに積もった煤を払う「煤払い」はお正月の神様を迎えるためのもの。気持ちを込めて、大切にしたい風習ですが人の都合に関係なく、時間は容赦なく流れてしまいます。

本格的な寒さを前に、祖父を見舞う父の姿を思い出します。休日が揃わず家族で出掛ける機会はたまの里帰りくらいの家庭でした。祖父が入院し、その後に介護が必要となった当時。真夜中に山間を抜けて片道4時間を運転する父を母が心配し、無理をさせないお目付け役としてよく同乗しました。運転ができない私はいつも助手席。かえって気を遣わせましたが、終盤はほぼ毎週となる道のりでした。

祭り行事を大切に土地柄に暮らす祖父が打つ祭り太鼓は評判でした。親の祭り好きを受け継いだのか、父も私も太鼓の音が風に乗って聞こえてくると、じっとしてられず、そんなふたりに母は決まって呆れ顔でした。

祖父の身体が衰え、出来ないことが増えると、自分が家族に迷惑な存在だとやりきれない気持ちをこぼすことが多くなり、その度に父たちの悲しそうな表情に胸が詰まりました。

お互いが様々な想いを抱えながらの介護でしたが、近くに暮らす親戚に大いに助けられて、父は仕事を続けながら祖父を看取ることができました。その時の父の姿は今も私の心にあります。

子どもは無意識に大人からさまざまなことを吸収します。身近な大人たちが子どもに普段いくら立派な言葉をかけたとしても、日々の言動が伴ってなければ、説得力が感じられないかもしれません。全てが完璧にできる人はいないでしょう。人それぞれ、苦手な部分はあるでしょう。大切なのは、誰かを思う気持ちから自ら行動する、一生懸命に生きている姿を見せることだと思っています。父はそんなつもりで行動を考える人ではありませんが、父を大切にしたいと思っています。

そして、家族に迷惑をかけたくない、そう思う方は多いでしょう。たぶん私も。ですが、申し訳ないという気持ちで自分を縛ると、自分自身もまた苦しめることになります。

肩身がせまいなんて思わず、堂々としてほしい。困った時はお互い様。遠慮せず、頼っていいときは頼ってみてください。そのためにも、安心してもらえる雰囲気づくりを普段から心がけたいと思います。そう考えると、世の中も少し明るく感じられる気がします。

このコーナーでは、フレンテみえのスタッフが日常を過ごしながら感じていることを自由に綴ってまいります。息抜きとして気軽に読んでいただきながら、もしかしたらその奥からなにかの“気づき”を得ていただけるかも…。次回もお楽しみに！

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流および人材育成の「6本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

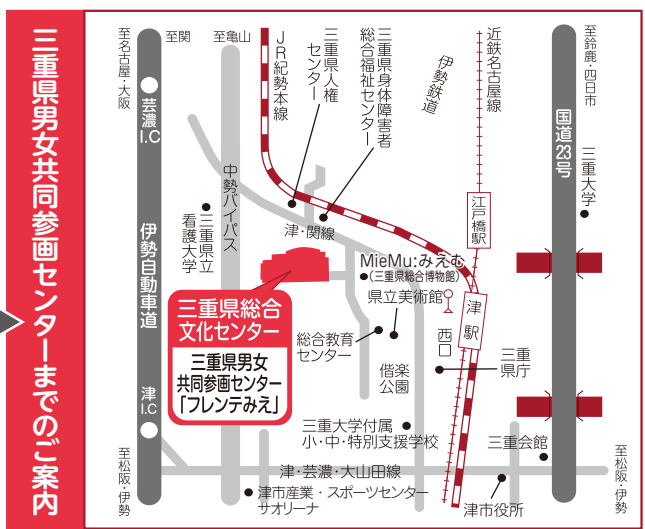
女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 **専用ダイヤル 059-233-1133**

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝	9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	●
昼	13:00～15:30	●	—	—	●	●	●	●
夜	17:00～19:00	—	—	●	—	—	—	—

※ 祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)



休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL http://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。